

第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和5年7月24日（月） 午前10時～11時30分

会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室

出席委員：藤井尚子会長、松井章子副会長、金子哲也委員、倉橋千弘委員、
鈴木ヒエン委員、田中佐和子委員、村松千香子委員、横田みどり委員、
吉林久委員

欠席委員：石田博久委員

事務局：河合多恵子UD・男女共同参画課長、鈴木大祐課長補佐、森下昌和UD
推進グループ長、太田俊樹、伊藤茜、伊藤佳奈

傍聴者：2名（報道関係者）

会議録作成者：UD・男女共同参画課 伊藤（佳）

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：無）

《会議次第》

- 1 開 会
- 2 委員委嘱
- 3 委員自己紹介
- 4 職員紹介
- 5 会長及び副会長の選出
- 6 議 事
 - (1) 令和5年度 主要事業計画について
 - (2) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・ゆうプランⅢ）について
- 7 閉 会

《配付資料》

- ・資料 1：令和5年度 主要事業計画
- ・資料 1-2：浜松市 ユニバーサルデザイン資料
- ・資料 1-3：ユニバーサルデザイン（UD）事例集
- ・資料：第5回浜松市ピクトグラム選手権チラシ
- ・資料：UD絵本ワークショップ写真資料
- ・資料：第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・ゆうプランⅢ）
- ・資料：八幡駅周辺バリアフリー基本構想（概要版）

《会議の経過》

- 1 開会

(事務局)

令和5年度第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設置されているものである。

本日は、石田委員が都合により欠席である。

2 委員委嘱

河合課長より金子委員、藤井委員に委嘱書を交付

3 委員自己紹介

金子委員、藤井委員自己紹介

4 職員紹介

UD・男女共同参画課職員自己紹介

5 会長および副会長の選出

吉林委員より藤井委員を会長に推薦する旨の発言後、承認される。

藤井会長が松井委員を副会長に指名する。

6 議事

(事務局)

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とする。また、会議録の作成については、「浜松市附属機関等の会議録の作成および公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載し、公開することを了承いただく。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により、議長は会長が務めるとされているため、会長にお願いする。

(1) 令和5年度主要事業計画について

(事務局)

(1) 令和5年度主要事業計画について説明

(吉林委員)

2点質問がある。1点目は、1ページの「UD講師派遣プログラム」にある「朗

読をともに楽しむ心のユニバーサルデザイン」とは、どのようなことが想定されるものか。

(事務局)

障がい者支援団体の「かたつむりの会」が講師を務めている講座で、視覚や聴覚の障がい者や高齢者と子供たちが一緒に、朗読を通して、短い文章を障がいそれぞれ違う人に対してどうやったら通じ合うかや、思いやり、相手の立場にたって思いを伝えることの大切さなど、心のユニバーサルデザインについて学んでもらうものである。

(吉林委員)

2点目は、事業所のUD推進についてである。令和2年度の意識調査の回収率は40%だったが、UDを取り入れていない企業は相当数あった。その理由は、必要ないから、UDが分からない、収益還元されないなどであった。UDに対して構えてしまう企業があるが、UDは案外身近なところにあり、気づいていないことが多い。事例集には大企業も中小企業も記載され、売上げに結び付いている旨も書かれている。事例集により企業に気づいてもらうための動機づけになるとよいと思う。

また、事例数をもう少し増やし、かつ中小企業の事例数がもう少し掲載されるとよいと思う。

(事務局)

令和2年度の調査結果では、UDを取り入れていないという回答が77.3%で、平成28年度の調査よりも6.3ポイント低下した。その理由として、「業務上必要ない」が58.6%であった。ユニバーサルデザインを難しく捉えている事業所、または既にユニバーサルデザインに取り組んでいることに気づいていない事業所があると思う。今回事例集を作成したので、これをきっかけに事業所にもう一度気づきをしていただきたい。また、事例集については、随時更新し周知していきたい。

(村松委員)

この事例集の使い方をどう考えているか。

(事務局)

浜松商工会議所に相談の連絡をしているところで、PRできる機会を紹介いただき、その周知方法などを相談したいと考えている。また、他にPRできそうな団体・機関等を紹介していただき、その団体等に働きかけ、説明の機会をいただき、事例集を紹介するなど、より効果的な周知策を探りながら、周知活動に取り組んでいき

たい。

(村松委員)

この事例集を後ろのページから見てしまったので、製品についてのユニバーサルデザインなのか、サービスについてのユニバーサルデザインなのか、職場環境についてのユニバーサルデザインなのかの分類が分からなかった。ユニバーサルデザインの気づきのための資料であれば、選定・分類などの説明があるとよい。

(事務局)

見やすいこともユニバーサルデザインの一つなので、見たいと思ってもらえるような作り方にしたい。ホームページに掲載する際も、わかりやすく分類し、見やすくしていきたい。本事例集をPRするにあたり委員の皆様から意見をいただきたい。

(横田委員)

私は商工会議所の女性会に所属しているので、メンバーに宣伝するなど力になれることがある。8月初めに商工会議所の平井副会頭と女性会メンバーの会合があるので、話してよければ、皆に話をする事ができる。平井副会頭はとても前向きな考えを持ち、商工会議所会員にも女性会会員にも話が広がっていくと思う。

(事務局)

大変力強い意見をいただき、とてもありがたく思う。相談させていただき、ぜひお力添えをお願いしたい。

(吉林委員)

この事例集に掲載されている会社のイメージが浮かばないところがあるため、会社概要があるとよい。

(事務局)

ご意見ありがたい。掲載については、企業の確認も必要になるため、検討させていただく。

(田中委員)

子供の人材育成の観点から、コロナ禍が収まり子供たちの実体験が増えてきているが、特に中山間地域の学校にとっては遠方になり、バーチャル空間でUD体験ができることは、とても有効であると思う。

タカラトミーやローソンの事例のように、子供たちの身近にあることを子供たち

に示してほしい。出前講座に1社来てもらうだけだとその学校にはその1社のことしか分からない。10社来てくれれば、10社の取組がわかるので、もっと啓発できるとよい。希望すれば、いくつでも受講できるとよい。

(事務局)

企業のUD出前講座については、1校につき1社(1回)の講座でお願いしている。学校にはPRしているが、10社がどういう取組をしているかが子供たちにも分かるような形でPRできるようにしていきたい。

(田中委員)

この事例集にある企業10社の中に、出前講座を行っている企業があるのか。

(事務局)

事例集に掲載している10社は、企業のUD出前講座を行っている10社とは異なる。この事例集を活用し企業にUDをPRすることで、自社でもこういう取組を行っているので、学校に出向いて出前講座をやってもよいという企業もあると思う。先進的な取組を行っている企業には、企業のUD出前講座を実施していただけないか打診していく。

(倉橋委員)

この事例集は素晴らしいと思う。企業はユニバーサルデザインを難しく考えているのではないか。多くの中小企業でも実施できる取組を選定すると、ユニバーサルデザインの成功につながるのではないか。事例数を多くして、特に中小企業の事例数を多くしていただくことで、企業の利益につながることを認識してもらいたい。

(事務局)

この事例集は初めて作成したものであり、これから増やしていくことも検討する。

(鈴木委員)

浜松市の外国人の中でUDを知っている人はまだ少ないと思う。私もこの会議に参加して知った。小学校に通う子供からUDの話を聞いて、子供がUDを知っていることに驚いたが、こうした出前講座などのおかげであると感じた。子供の頃から知っているとういと思う。

外国人向けの出前講座が分からないが、「グローバルコミュニケーション時代、やさしい日本語で外国人と仲良くなろう！」という講座の詳しい内容を教えてほしい。

(事務局)

外国人向けの講座ではない。外国人と話すとき、外国語で話さなければ、と通常考えがちであるが、外国人にも分かりやすい「やさしい日本語」で話すことで、コミュニケーションがとれることを学ぶものである。講師は外国人支援団体のNPO法人フィリピンナガイサが務めている。例えば「あさって」をもう少し噛み砕いて「2日後」と表現するとよいというような、「やさしい日本語」を学ぶのと同時に、外国にルーツを持つクラスメイトと仲良くなるという意味でも、外国人とのコミュニケーションの取り方を学ぶ講座になっている。

(鈴木委員)

今のところ外国人向けのUDに関する講座はまだないということか。

(事務局)

講座ではないが、ポルトガル語など外国語版の啓発資料を作成しており、UDを学ぶための教材を用意している。

(金子委員)

資料1の1ページ目にあるアのUD学習資料配布について、これは小学4年生を対象にユニバーサルデザイン条例が施行された頃からずっと進めている事業かと思う。これからも続けていただきたいと思うが、これは資料の配布だけなのか、それとも小学4年生に必ず教えるように学校の先生にお願いをしているのか。

(事務局)

年度初めに、国公立私立を含めて、市内の小学4年生全員に配布をしている。学校の先生に対しては、資料1の4ページにある⑤アの教職員初任者研修において、UDに関する教材を紹介し、活用のPRをしている。

ユニバーサルデザイン条例に、学校教育におけるUDの取組についての規定がある。本市の場合、小学4年時に総合学習の時間があり、その中で、福祉やユニバーサルデザインなどを学ぶ選択肢の一つとしてユニバーサルデザインがある。各学校で実施する出前講座でUD学習資料を使って勉強している。

(田中委員)

外国人向けの講座はないとのことであるが、資料配布だけではなかなか周知できないと思う。なぜ子供たちがユニバーサルデザインをよく知っているのか。それは小さい頃から講座を受けたりして、多くの学びに触れているからだと思う。もちろん教科書にも載っているし、先生からも聞く。このように、見て聞いたり見て学ん

だりなど、人と人との実際の間わりの中から学ぶということはとてもよいと思う。こうした講座を実施することで裾野を広げることになると思う。

(松井副会長)

事例集の浜松版があるとよいと思う。既にUDに取り組んでいることに気づいていないだけだと思うので、色々な方の力を借りて周知していけばよいと思う。

子供向けの学習資料について、資料1-2の①の「みんなでユニバーサルデザイン」は、市内の小学4年生全員に配布しており、英語版やポルトガル語版もあるのであれば、うまく活用していけばよいと思う。

同資料②の「はまつユニバーサルデザイン電子版」について、スマートフォンで確認したが、浜松市ホームページのユニバーサルデザインのページにある「電子版しずおかイーブックス」のリンクが探しづらい。

(村松委員)

URLが長いまま掲載されているので見にくいのだと思う。ホームページのデザインを改良するとよい。わかりづらく見逃してしまうこと自体が、UDとはいえないと思う。

(松井副会長)

スムーズにたどりつけなかったのもう少し探しやすいとよいと思う。

ピクトグラム選手権の「一般の部」は、毎年どのくらい応募があるか教えてほしい。一般への周知については、市役所内での募集と市ホームページでも募集しているという案内はあったが、広報ははまつなどでも周知しているか。

(事務局)

「一般の部」は昨年度初めて募集し、ブラインドサッカーをテーマに243点の応募があった。市役所内で募集というのは、今年度のテーマを市役所内で募集し、テーマを特殊詐欺防止に決定した。広く市民に作品を応募していただけるように募集をかけている。

(藤井会長)

事例集について先ほど意見があったように、目次を見ないと分類が分からないというのは大きな課題である。UDに取り組んでいる企業を発掘していく上でも、きちんと分類し章を立てないといけない。皆が普通に使っていて、誰もが何気なく使っていて便利だというのが、意外と最も良いユニバーサルデザインだったりする場合もある。このように、もう既に当たり前のように浸透しているというケース

を敢えて選定してもよいと思う。そのためには、しっかり項目立てをしてほしい。目次の項目立てについては、「〇〇のユニバーサルデザイン」がキーワードであれば統一した方がよい。

さらに、文字が多くて直感的でなく、とても読みにくい。文字情報だけにこだわらないでほしい。些細なことであるが折角の意見をうまくブラッシュアップしていければと思う。

私も事例集の浜松版が欲しいと思うが、浜松市のようなユニバーサルデザイン審議会という組織は、他の市区町村にもあるのか。

(事務局)

ユニバーサルデザインが単独で課となっている自治体は、全国の自治体ではないと思う。

(藤井会長)

もしあれば、連携してみるとよい。様々な事例や相手の持っている情報を一緒に合わせるともっとボリュームが欲しいという要望に答えられるし、視野も変わってくるかと思う。

令和5年度主要事業計画について承認する。

(2) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・ゆうプランⅢ) について

(事務局)

(2) 第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・ゆうプランⅢ) について説明

(横田委員)

第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・ゆうプランⅢ) の資料5ページの「くらし」について、八幡駅周辺バリアフリー化のような大きな事業にはお金がかかる。ユニバーサルデザイン化するための助成金についてホームページを調べたが、2事業者までで、1事業につき上限30万円とあった。助成金の制度があるが、ユニバーサルデザイン化するには金額が少ないと思う。

(事務局)

今話のあった事業は、資料1の5ページにあるUD提案事業のことである。この事業は4つのテーマがあり、こうしたテーマで事業を実施してくれる方を募集して、その事業を採択した場合に、上限30万円で委託して事業を実施いただくというものである。

(横田委員)

市からこれをやってほしいと企業を選んで、市からお願いした場合に委託するということか。

(事務局)

UD提案事業は、企業ではなく、市民団体に対して委託するものである。例えば、昨年度ではNPO団体がLGBTQの方の居場所づくりを実施した。市民団体等から主体的に事業提案をしてもらうものである。

(横田委員)

今年はまだ募集しているのか。

(事務局)

既に募集が終了し、1団体からの応募があった。

(村松委員)

2団体募集のうち1団体が応募ということだが、追加募集はあるか。

(事務局)

追加募集した中で1団体から応募があった。

(横田委員)

この事業について知らない人たちがこの委員の中にもいる。浜松商工会議所には13,500社の事業所があるが、そのほとんどが知らないのではないかと思う。周知されてないのは残念である。ぜひ周知に力を入れてほしい。

(事務局)

商工会議所への周知が不足していて申し訳ない。ただ、UD提案事業は、企業や事業所が対象ではなく、市民団体やNPO団体を対象としている。

(横田委員)

女性会にもNPO団体がある。商工会議所だけではなく浜名商工会や浜北商工会など他にも多くの組織があり、何万社もの事業所があるので、しっかり周知していただきたい。

(事務局)

周知方法については、改めて検討する。

UD提案事業も、ユニバーサルデザイン計画にある他の事業も同じであるが、各事業とも、市役所内の各課から出されており、事業によっては補助金対象のものもある。各事業の進捗状況は、第2回審議会にて説明させていただくので、そこで審議をしていただきたいと思います。

事業費については各課の事業になるので、当課では把握していない。ただ、ユニバーサルデザイン計画に掲載することで予算要求しやすくなるというメリットがあるため、各課とも計画に掲載した上で事業を実施することとなる。

(藤井会長)

第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画(U・ゆうプランⅢ)について承認する。

7 閉会